

2  
0  
目

# 「ジャパンスンドローム」克服を



第25回人間らしく働くための九州セミナーの2日目は30日、鹿児島市で開催されました。25周年記念の特別講座では、北海道大学環境健康科学研究教育センターの岸玲子特任教授が「公衆衛生の視点と女性の視点で人々の生活と健康と安全を考える」をテーマに登壇しました。

岸さんは、現在の日本を「かつてなく生まれつらく、生きにくい国になっている」と指摘。非正規雇用が急速に拡大し、初職から女性では5割にも上ることを紹介、女性の収入が低く、税や保障の再分配政策が機能していないことなどが背景にあるとしました。

海外から「日本症候群」といわれる雇用不安や社会保障不安の状況の中で、などの問題が噴出する中、私

たちがどのような社会を目指すのかにも言及。「ジエnder視点の改革が必須」としました。同一労働同一賃金の実現や、パートタイム条約に批准することが急務だと述べました。

さらに、女性が高等教育を受け、社会進出を果たすことで、問題解決の一助になると訴えました。

## シンポジウム「子どもの貧困」

コーディネーターに鹿児島生協病院の玉江末広さんが務め、小学校教諭の安村美代さん、弁護士の下之園優貴さん、生協病院の徳永正朝さん、社会福祉士の天羽浩一さんがパネリストとして登壇しました。

学校現場からは、保護者から面倒を見てもらえず、食事を与えられなかったり、高熱が出ても登校させられたりする事例や、一切子どもを外に出さず登校もさせないため、安否確認で何度も家庭訪問したりする例があることが報告されました。

「残念ですが、子育てできない親は確実にいます。子どもに関わらない親も少しずつ増えている。それでも、子どもを生んだ義務としてご飯だけは食べさせてあげて、といいたい。」 ご飯を食べていないため、痩せる子どももいるといえます。「肥満だけでなく痩せ



の調査もしてほしい」と訴えました。

生協病院の徳永さんは、臨床を通じて関わった児童や生徒の問題を紹介し「親の経済力が子どもたちの将来影響している」とし、親が持つ時間の減少にも問題の根深さを指摘しました。

## 分科会

特別講演のあとは、10のテーマに分かれて参加者からの報告と白熱したディスカッションが行われました。詳細は報告集でご確認ください。



【訂正】現地実行委員会ニュース2号の九州セミナー賞の受賞団体に誤りがありました。生協労連九州司法連合会とあるのは、生協労連九州地方連合会でした。お詫びして訂正します。

## 次回、第26回人間らしく働くための九州セミナーは佐賀県で開催します!



第26回セミナー現地実行委員長の東島浩幸さん  
(佐賀中央法律事務所)

○8年前の大会以上に人間らしく働く状況は悪くなっている。学ぶ・調査する・報告するといった活発なとり組み刺激を受けて、次回、前進できるよう現地実行委員も様々な団体と力を合わせて準備していきます。



2日間にわたり司会を務めてくださいました馬場さん(鹿児島県医労連)と福丸さん(コープかごしま労組)です。

スムーズな進行のおかげで無事にセミナーを終えることができました。

本当にお疲れ様でした♪

ちなみに・・・ニュースのタイトル「おやっとさあ」は鹿児島弁で「お疲れさま」という意味です。ご存知でしたか??

参加者のみなさん2日間本当に“おやっとさあ♪”でした!!